

南公民館からベルク
信号御成街道追分まで
731m9分

上高野神社

上高野神社

上高野村道路元標

上高野村道路元票
御成街道沿い石井造前橋のたもと
に建てられていたもので、平成二年一月
の歩道工事のとき、旧日光街道沿いでも
あるこの場所に移された。

coffee time

日光御成街道

中世以来の鎌倉街道を、江戸時代に整備された日光街道の脇街道とし、将軍が日光東照宮へ参する際に利用された街道。本郷追分(文京区弥生1丁目)で中山道から分岐し、幸手宿で日光街道と合流する。また、岩槻藩の参勤交代に使われたことから岩槻街道ともよばれる。将軍が日光へ参詣の際には江戸城大手門から直接、出発したという。岩淵宿(東京都北区)~川口宿(埼玉県川口市)~鳩ヶ谷宿(埼玉県鳩ヶ谷市)~大門宿(埼玉県さいたま市緑区)~岩槻宿(埼玉県さいたま市岩槻区)~幸手宿(埼玉県幸手市)

coffee time

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)

都心から約40~60kmの位置を環状に結ぶ延長約300kmの高規格幹線道路で、横浜、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市を連絡し、東京湾アクアライン、東京外かく環状道路(外環道)などと一体となって首都圏の広域的な幹線道路網を形成するとともに、首都圏の道路交通の円滑化、環境改善、沿線都市間の連絡強化、地域づくり支援、災害時の代替路としての機能など多くの役割を担う環状道路です。平成27年3月開通。

coffee time

道路元票

日本では明治6年(1873)12月20日政府は「太政官日誌により各府県ごと「里程元標(りていげんびょう)」を設け陸地の道程(みちのり)の調査を命じている。明治44年(1911)に現在の日本橋が架けられたとき「東京市道路元標」が設置され、大正8年(1919)の旧道路法では各市町村に一個ずつ道路元標を設置することとされていた。設置場所は府県知事が指定することとされており、ほとんどは市町村役場の前か市町村を通る主要な道路同士の交叉点に設置されていた。東京市に限っては旧道路法施行令によって日本橋の中央に設置することと定められていた。道路の起終点を市町村名で指定した場合は、道路元標のある場所を起終点としていた。現行の道路法では道路元標は道路の附属物とされているだけで特段の規定はなく、道路の起終点は道路元標と無関係に定められている。道路元標の設置義務がないため、取り壊されたり工事などでいつの間になくなってしまった道路元標も少なくない。日本橋の中央にあった東京市道路元標は東京都電本通線の架線柱として使用されていたが、都電廃止後昭和47年(1972)の道路改修に伴い日本橋の北西側に移設された。東京市道路元標があった場所には、50cm四方の日本国道路元標が埋め込まれた。文字は佐藤栄作によるものである。日本国道路元標の直上の首都高速の高架橋上にも、東京市道路元標に似せたモニュメント(道路元標地点碑)が設置されている。



26 杉戸宿 ~ 幸手宿

埼玉県杉戸町 埼玉県幸手市
杉戸高野台 ~ 上高野
(歩行距離 1930m 24分)
歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp

幸手宿の旅籠屋

「髪結床に入りて(其頃はまげの有る時なり)髪を結びなどして床の親方に問へば、釜林と申すが、古く宿やをして上等なりきと聞き、釜屋へ入らんとするに、旧家とて造作は破れ見苦しき家なり。いかゞせんと覗きこめば、奥の方に清潔(きれい)なる座敷の有る様子故、泊まりを申し入れける」
「其うち奥州の女6、7名合宿(あいやど)となり、彼夫人庭の井戸端にて洗濯をする音さわがしければ「ほちやほちやと肥えたか」衆の洗濯に、盥(たらい)と尻にたがもはめした」
「其夜は雨ふりて寝心(ねごち)も好からんとおもひのほかにて、蚤多く眠りかね、五時(朝かた)に起出で、支度をなしたり」(上野・下野道の記)

6 幸手宿

日光街道の江戸・日本橋から数えて6番目の宿場である。元々奥州に通じる渡しがあった場所として古くから栄え、日本武尊が東征に際して「薩手が島」(当時この近辺は海だったという伝説がある)に上陸、中4丁目にある雷電神社に農業神を祀ったという記述が古書に残っている。鎌倉時代には鎌倉街道が通り、軍事・交易上でも交通の要衝として栄え、室町時代以降は一色氏の領地となり、現在の天神社付近に陣屋が築かれていた。

江戸時代になると、一帯は江戸幕府直轄の天領となり、日光御成道との合流点として、さらに筑波道が分岐する宿場町として繁栄した。なお、この頃に、それまで田宮の庄と呼ばれていた町の名が幸手となった。「いにしへは宮田町と唱へしを元禄の頃(1688~1704)より幸手町と改め、今は首都いふ」(日光道中略記)「田村といへることは、往古名家まれなるころ、田の中に雷電の神体忽然としていませり。村民奇異のおもいをなし其所に社を建あがめ祀れり、此やしらのみ田の中にあるをもて田宮といひし地名となれり。今宿内宝持寺に安置する所の雷電の像是なり」(日光道中略記) 天保14年(1843)当時の人口は3,937人(男1946人、女1941人)、家数962軒、本陣1、脇本陣1、旅籠2軒、駄馬・賃銭:荷物1駄・乗り掛荷人共92文、軽尻馬1疋61文、人足1人47文であった。(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)

両隣の杉戸宿や栗橋宿と比較すると、2倍以上の宿場規模を誇っており、純粋な宿場としては千住、宇都宮、陸奥白川、越ヶ谷に次ぐ大きさであった。

coffee time

商家

商家では蔵造りも多く見られる。耐久性のある土蔵を庭に別棟として建て、家財道具を守る庭蔵が多いが、主屋内に取り込んだ内蔵もみられる。この蔵を店舗として利用するのが蔵造り店蔵である。店は収蔵用の蔵のように開口部を小さくするわけにはいかないし、蔵の建造費も大変だから、蔵造りは二階部分にしつらえるのが普通で、ここに商品を収納したり、使用人の住居にも使われた。家族は奥に建てた別棟の木造家屋に居住するが、これは火災時には焼失するで、一般民家同様に焼家(やけや)とよばれた。蔵造りは重厚な感じと安全性を誇示して店の信用を高める効果もあるようだが、蔵造りとは似たものに漆屋造り(ぬりやつくり)がある。この違いは壁厚が蔵造りは30cm、漆屋造りでは10cm程度で、耐火性の違である。蔵造りが塗や鉄扉など以外、開口部を極力少なくしているのに対し、漆屋造りは家の側面、軒裏、外壁などを白漆喰で仕上げる。防火性は蔵造りに劣るが、ほとんど二階部分だけに用いられたので、虫籠窓や縦格子をつける町屋の特徴を演出してくれる。

左にかっぱ寿司、右にCOCOS 菓のカワチ、本の文真堂。さらに左にジェームスがある。正面にくるま買のアップル。旧日光街道は信号を左に入っていく。歩道のない狭い狭い道路で交通量が多いので注意。

埼玉県 幸手市

埼玉県 杉戸町